

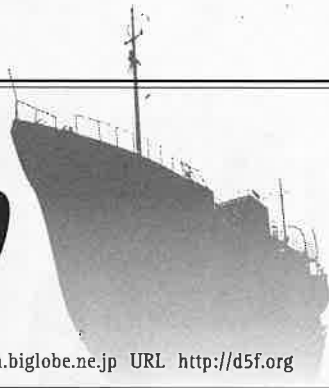
都立 第五福竜丸展示館ニュース

2005.11.01
No.324

福竜丸だより

発行：財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島3-2 〒136-0081 第五福竜丸展示館内

Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail:fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



長崎原爆資料館での第五福竜丸展。修学旅行の季節でにぎわっている



長崎の第五福竜丸展オープン 夢の島にも修学旅行の生徒ら来館

—第五福竜丸被爆が反核運動の原点であったことをあらためて感じました。あれからの時間経過を考えると「平和」はたまたかいつづけなければ得られないのだと思います—

—技術だけでなく、人が進歩しなければならぬと思った。原爆は人間の手に負えるものではない—

長崎原爆資料館の被爆六〇周年企画展として「第五福竜丸展」が一〇月四日より始まりました。冒頭の一文は、展示会場の感想ノートに記された言葉です。

会場の企画展示室は、常設展示の最後のコーナーにあたり、世界のヒバクシャ、核軍拡競争や平和宣言の展示に隣接しており、長崎の原爆被害に続いての「ビキニ被災」に心を寄せられる方も多そうです。

—何も罪もない人たちが犠牲になるのは全く納得がいかないことだと思えます—というメッセージも寄せられました。

去る一〇月一三日、長崎原爆資料館のボランティアガイド（平和案内人）の方が展示館を来訪され、「こんな小さな船で太平洋へ！」とびっくり。学生

時代に保存のキャンパをした事、反戦運動に夢中だった友人のこのなどを思い出しました」とのメッセージを残されました。

手紙展、NHKで紹介

手紙展は、オープニングの九月二三日の夜、NHKの首都圏ニュース8・45で紹介されました。久保山さんが亡くなった当時、同僚と書きを送った被爆者の田中照巳さんのコメントやオープニングでの手紙の朗読などが放送されました。このほか、毎日小学生新聞や日本青年団協議会の機関紙「ウイリータイムス」などが大きく掲載されています。

NHKテレビを見て来館されたという方は、「戦争を知らない世代です。けれどだからこそ、知っておきたい」とメッセージを残してくださいました。

*

秋は修学旅行のシーズンですが、今年も天候不順もあり昨年、一昨年よりも来館者が少ないようです。九、一〇月は約四〇校の小中学生の団体と高齢者のグループが五〇余り来館し、ボランティアの説明に聞き入っていました。

資料館も航海中

「第五福竜丸展」の開催に際して

長崎原爆資料館館長 多以良光善

現在の町並みからは、なかなか想像し難いことですが、一九四五（昭和二〇）年八月九日午前一時二分、米軍機から投下された一発の原子爆弾によって、長崎の市街地の多くは一瞬にして廃墟と化しました。七万人を超す死者とほぼ同数の負傷者が生まれ、市民の生活や文化が根底から破壊されたと言っても過言ではない状態になりました。しかも、この町には今なお、原



企画展会場での多以良館長

爆後障害や被爆体験ストレスによる健康障害などに苦しみ続けている多くの人がいます。これらの惨禍を踏まえ、長崎市では原爆被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を実現し、世界平和を推進することを目指して、市民と行政が手を携えて取り組んできました。その拠点施設として、長崎原爆資料館があります。

初の福竜丸展

この度、その資料館で、原爆被爆六〇年という大きな節目の年に「第五福竜丸展」を開催することができました。この展示会を多くの人々に見ていただくことによって、事件の内容や背景、その意味するところを知ってもらいたい。くわえて、ビキニ水爆実験で放射能症になった福竜丸の乗組員やマーシャル諸島住民の苦しみ、怒り、悲哀など

を理解してもらいたい。そして、展示を見た人が自分なりに、核兵器の恐ろしさを感じ、平和の大切さについて考える契機としてもらいたい、といったことを期待して企画したものです。

一〇月四日から始まった展示会は、被爆六〇周年記念事業として、まことにふさわしいものとなりました。財団法人第五福竜丸平和協会のご協力に、この場を借りて心から感謝申し上げます。

展示会の反響は上々で、特に地元マスコミの関心は高いものがあります。ちなみに、新聞三社が計四回、かなりの紙面を割いて写真入りの記事にしてくれましたし、テレビにおいては地方五局全部が、ニュース番組で丁寧な取り上げ方をしてくれました。来館者の様子ですが、ほとんどの方が会場の企画展示室に入ってくれています。ただ、時間をかけて丁寧に見ている人は、そう多くないようです。この種の展示会の常なるものとも思いますが……。今後、国連軍縮週間などで、関心の高い市民や行事参加者の見学

も期待しているところです。

福竜丸 航海中

ところで、私の席の右手には、「福竜（龍）丸」の四分の一の模型が飾られています。現職に就任以来毎日と言って良いほどに、この模型を覗き込んでいます。最近、その精巧さの中にある木造船の質感や温もりに興味を持つようになっています。タイミングも良く、展示会初日に安田事務局長の講演をお聞する機会を得ました。事務局長の話から、事件の流れを再認識するとともに、今まで想像さえてできなかった深刻な経緯があることも知りました。その中に、福竜丸が遠洋マグロ漁船であるにもかかわらず木造でなければならなかった理由、そして太平洋の真ん中まで出た時代の背景があります。また、講演後に調べたところ、模型が元乗組員の大石又七さんから昭和六〇年に戴いたものであることが分かりました。以来、模型から私に向かつて発せられるオーラが、一段と輝きを増したようです。

講演の最後に事務局長が言われました。「福竜丸は、核兵器の無い世界に向かって未だ航海中なのだ」と。同じく、長崎原爆資料館も、世界につながる出島の港を母港に、被爆実相の継承と核兵器廃絶のため航海を続けたいと考えています。

（たいらみつよし）

●長崎原爆資料館企画展示「第五福竜丸展」は二月二十五日まで。開館時間八時三〇分～一七時三〇分 原爆資料館の観覧料が必要です。大人二〇〇円、高校生以下一〇〇円

平和協会の本

手記集 わたしとビキニ事件
—ビキニ水爆実験 50 年記念—

全国から寄せられた手記 34 編と特別掲載 6 編を収録。人々の記憶を記録に！
A5 判 64 ページ
価 500 円（送料 200 円）

揺れる心を理解し、ロンゲラップ島民の帰島・再定住への道を支援

渡辺 幸重



調査の最終日現地の人々との交流会

被曝したロンゲラップ島民との交流を深めました。今回は、一九九九年に実施したロンゲラップ島の残留放射能調査結果の公式報告会を開くとともに島民の前歯を調べ残留放射能調査を行うこと、今後の科学調査活動について相談することが目的でした。

ロンゲラップ島の放射能を調査

ロンゲラップ島民は、一九五四年のビキニ水爆実験によって汚染された島を離れ、いまだに他の島で暮らしています。

ロンゲラップの人たちが故郷に帰り、自立した生活と文化を取り戻すためには、島が安全で安心できる場所だということが証明されなくてはなりません。しかし、島民はアメリカのデータや判断を信用していません。そこで、私たちは、島民が帰島の是非を判断する材料として、利害関係がない科学者の客観的データが必要だと考え、高田教授と共同で残留放射能調査を始めました。一九九九年七月の第一回目のロンゲラップ島現地調査では、表土の放射線量調査やクロンアップ工事中の労働者の体内被曝量調査などを行いました。結果は、「現時点ではロンゲラップ本島の残留放射能のレベルは低く、再定住は可能」というものでした。ただし、環礁内の他の島からヤシの実やヤシガニを獲り、魚や放し飼いにしている豚、鶏を日常的に食べた場合の調査を行う必要がある、という意見が付けられました。

そして、今年一月、ロンゲラップ選出国会議員のアバッカ・アンジャインさんから、高田教授の現地調査を継続して欲しいとの要請があり、今回の私たちの訪問になったわけです。

健康問題、産まれてくる子どもたちへの影響などについて質問があり、さらに約一時間の熱心な質疑応答が繰り返されました。

来年以降の調査活動で合意

ロンゲラップの人たちの心情は複雑です。島に帰りたい気持ちは募っても、身近な人が次々と死に、出産障害を目の当たりにした経験から放射能に対する恐怖を振り払うことができません。ポイズン（放射能毒）がある限り島に帰ることはできないと言います。また、自分たちを被曝させ、研究の対象にするもの十分な治療をせず、調査データを隠してきたアメリカ政府や科学者の言うことは信用できないので、安全性を判断することができません。

島・再定住に関して自ら判断して行動できれば、という思いが強まりました。滞在の最終日には、今後の調査研究活動についてロンゲラップ村、高田教授、ブンブンプロジェクトの三者が共同で進めるという内容の覚書を締結することができました。来年八月に次の調査が行われる予定で、ロンゲラップ環礁全体や近くの環礁における残留放射能を測定し、昔のような暮らしをした場合の被曝の度合いについて分析することになります。

「豊かで幸せな生活」を

ロンゲラップの人々の帰島がかない、海の民として豊かで幸せな生活を取り戻すことができればすばらしいことです。その日をめざしてブンブンプロジェクトの活動は続くことでしょう。皆様方のご協力ご支援をお願い申し上げます。

（わたなべ ゆきしげ／ブンブンプロジェクト会員）

参考V・ブンブンプロジェクト会報 <http://www.erix.com/bunbun/BJM20.pdf>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/yukwatan/>

手紙展に寄せられた心



企画展「手紙—託された心」では、来館者に“あなたからの手紙”を書いていただいています。久保山みや子さんへ、第五福竜丸へ、未来に生きる子どもたちへ...さまざまなメッセージが寄せられています。

○久保山みや子様

ビキニ事件の時私も小学3年生でした。みやさんが当時、日本中から注目され小さい心を痛めながら精一杯頑張って生きていらしたことが胸につまります。今、平安でいらっしゃることを強く願っております。

○第五福竜丸へ

がんばったね、そしてがんばってるね。今、展示館にいて核兵器のことを訴えつづけてくれて感謝します。福竜丸があるから事件のことも核が悪いということも生々しくわかります。ボロボロになっちゃったけど、いつまでもここにいてください。

○戦争が終わったのにこんなことがあっていいのかと思います。二度とおこってもらいたくありませんよね。ここのところの日本やアメリカの政治を見ていると大変危惧されることもあります。この展示館のことが広島・長崎でも紹介されるようお願います

手紙展 みどころ よみどころ

このたび特別展示されている鈴木静枝さんの手記は不思議なめぐり合わせで発見、展示することができました。

この手記は第五福竜丸甲板員鈴木鎮三さんの妻静枝さんが、1954年7月に書いたものです。原爆被害を被った広島市民へ、原水爆反対のためにも手を携えましょうと呼びかけたいという記事が、朝日新聞(54年8月5日付)に掲載されています。

この手記の所在は不明でしたが、今年の2月、広島平和記念資料館での第五福竜丸特別展開催の準備の中で、同資料館に所蔵されていることがわかりました。

この手記が広島にあるのは、平和記念資料館の初代館長岡省吾さんが、第五福竜丸の被災が報じられた直後に焼津へ行き、見崎吉男さんらに会っていることなどから、この手記も焼津市事件対策本部を通じて長岡さんに託されたのではないかと推測されます。

鈴木夫妻については、ラルフ・ラップの『福竜丸』でも触れられています。とりわけ6歳のまり子ちゃん、4歳の正平君を連れて、夜なべ仕事で縫い上げた敷布団を乳母車に乗せ、出航の見送りにきた様子は印象深く描かれています。12ページに及ぶ手記には、借金に負われる生活苦、夫の体への不安、自身の戦争体験と、子どもたちが再び戦争に巻き込まれるのではないかと危惧、絞り出すような平和への希求が端正な文字で綴られています。全文が読めるよう展示してあります。ぜひご覧ください。



* 10月20日、福岡県と千葉県ンの被爆者が来館した

来館者の声より

◇久保山さんの主治医の「読む証言」を読み涙が出ました。本当の医者姿を見る思いがしたものです。久保山すずさんの証言、私も二人の子ども之母です。同じ思いを強くしました。(50代女性)

◇後世に伝えるためにも、第五福竜丸をずっと遺してほしいと思います。小5の息子と一緒に来館しましたが、さいきん戦争に対する関心が高いのです。第五福竜丸を実際にみて圧倒されています。(40代・男性)

◇この事件は知っていましたが、こんなにひどいとは知りませんでした。これからはぜったいに戦争をやらない国、平和な地球にしなければなりません。(10代・男性)

◇広島・長崎に比較するとやっぱりまだ知名度が低いのが残念です。「ちょっと忘れかけていた」ビキニ事件です。明日の平和のために全国レベルの展示館になってほしいです。(50代・女性)

